

2018年11月28日(水)

宮城野区 P T A 連合会研究大会 『子どもの健やかな脳発達のために』に参加して

昨年度は、日本 P T A 全国大会が仙台市で開催されたため、2年ぶりの区 P 連研究大会でした。会長校の東華中の皆様、関係各位におかれましては、今日までの準備、そして当日の運営など大変お疲れ様でした。(ちなみに一昨年は、我が東仙中が区 P 連会長校でした。)

さて、今回は『子どもの健やかな脳発達のために』と題して、ピアニストの田原さえ氏、東北大学医学加齢研究所 瀧靖之氏の講演を聴きました。

田原氏のピアノ演奏は、数年前に新田児童館で開催されたチェロとのミニコンサートを聴いたのが初めてでした。瀧氏の講演も、以前何かの機会に聴いたことがありました。

まずは、田原氏のピアノ演奏を聴きました。リサイタルほどの曲目の多さに驚きました。

ベートーベン ピアノソナタ「悲愴」第2楽章

バッハ 「シチリアーノ」

ダカン 「かっこう」

シューベルト 「即興曲」

ドビュッシー 「月の光」

リスト 「愛の夢」第3番

ラヴェル 「亡き王女のためのパヴァーヌ」

ショパン 「雨だれ」「幻想即興曲」

演奏の合間に、柔らかな語り口のお話も心地よかったです。それにしても、全曲暗譜で演奏って凄い！

次は、瀧氏の講演でした。先生は脳トレでおなじみの川島隆太氏が所長を務める加齢医学研究所に所属され、認知症予防や子どもたちの脳の発達などの研究が行われているそうです。

子どもの脳の発達について、子どもたちに協力してもらいMRIを取り、調べたところ、脳の後部（五感などの感覚）から前部（記憶、思考能力等）に向かって不均一に発達することが分かりました。そして、2歳ころから出てくる子どもの知的好奇心を満たすことが脳の発達を促進するそうです。親子での熱中体験（何かに夢中になること）や、親が楽しんでいる姿を子どもに見せることが大切だそうです。

そして、これは大人にも当てはまるようで、知的好奇心が高いほど脳の加齢が抑えられることも分かっています。運動の習慣化、他者とのコミュニケーション、趣味を持つ。これらが認知症予防にもつながるそうです。

趣味としての楽器演奏も脳の発達を促進するようで、楽器演奏者はそうでない人に比べて脳年齢が若いそうです。プロとアマチュアの違いはほとんどなく（！）、アマチュアに比べプロの場合は生業として楽器演奏を行っているため、多少のストレスがあるのではないかとのことです。

田原氏のように華麗にピアノが弾けたなら（昔、そんな歌がありました）、外国に行って言葉が通じなくても、ショパンなどを弾いて世界中の人とコミュニケーションが取れる…音楽の素晴らしさを改めて感じました。あっという間の2時間半でした。